

資金運用の実施状況について

資料3

短期運用の実績

	24年度	25年度	26年度	27年度 (見込み)
平均運用利回り(%)	0.134	0.082	0.044	0.020
運用可能な資金量(a) (億円)	3,703	5,062	6,283	6,400
当座預金平均残高(b) (億円)	285	542	756	1,600
運用可能な資金量に占める 当座預金平均残高の割合(b)/(a) (%)	7.7	10.7	12.0	25.0
利回り低下の 背景	平成25年4月に日本銀行が量的・質的金融緩和政策を導入したことに加え、平成26年10月に同政策を拡大したことにより運用利回りは低下。			

【短期運用における課題】

- ①市場金利が低位で推移することによる運用利回りの低下
- ②国庫短期証券等の債券が入手困難なことによる当座預金平均残高の増加

資金運用の実施状況について

長期運用の実績(平成28年1月末時点)

	長期運用実績		(参考) 27年度府債調達見込み
		27年度運用分のみ	
平均運用年数 または 平均調達期間	8.51年	8.53年	8.20年
平均利回り	0.4026%	0.4123%	0.3690%
債券の保有金額	80億円 (内訳) ・地方債 70億円 ・地方公共団体金融機構債 10億円	40億円 (内訳) ・地方債 40億円	—

【長期運用の実施状況について】

・日本銀行による量的・質的金融緩和政策(以下、「同政策」という。)を背景として、歴史的な低金利(平成27年1月20日、利付国債(10年):0.195%)となったことに伴い、長期運用を一時見合わせた。

・しかしながら、同政策の影響により低金利環境が長期化するリスクや本府の当座預金残高増加の状況を踏まえ、市場金利が低利であっても、資金調達金利に見合った資金運用利回りを確保するという観点から、同年10月より長期運用を再開。